

2022年12月6日発行

22-49号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**わかるとは**

宇宙物理学者の佐藤文隆さんに、フリー編集者・艸場（くさば）よしみさんが手紙を書き、それに答えるかたちで書かれた書籍「科学にすがるな！」のことばから、朝日新聞で鷲田清一さんが連載しているコラム「折々のことば」にありました。「折々のことば2577（12/5）」です。

＊＊＊＊

わかるのは「こういう意味で『わかった』といってるのか」という納得である。

　（佐藤文隆）

宇宙の構造から人の生死にまで、世の大半のことは、考えるとすぐわからなくなると理論物理学者は言う。実験室の知識で解けても、そういう枠組み、文脈ではということでしかない。それでも「けなげに」間違いを見つけ、改善してゆこうとするのが人間だと。のぼせ、傲慢になった知性ほど厄介なものはない。フリー編集者・艸場（くさば）よしみとの共著『科学にすがるな！』から。

＊＊＊＊

　「科学にすがるな！」は、「物理では人間はわからない，宇宙に死の答えを求めるな，死の意味を自分に問うな」と、自身の科学論や学問論で答える宇宙物理学者に対して「それでも死をどう考えるかを聞きたい」と食い下がり，質問し続ける女性、その二人の議論が書いてあるということです。（本の紹介より）

　人間の知性では、大半のことは、分からないと物理学者は言います。しかし、それでも改善していこうとするのが人間だと言っています。ただ、それも結局、「その人の枠の中での理解」であって、決して、正解や真理ではないのです。そのことを分からず、自分がすべてを知っているとのぼせ、傲慢になることを戒めています。

　小さな子どもは、自分のことしか分かりません。少し成長すると、世間の動きが分かり、人の感情が分かるようになってきますが、それができると物心がついたと言われます。一般的に、物心がつくのは、幼児期を過ぎたことだと言われています。そのように、人間は知的には成長するのですが、しかし、「自分」という枠の中にいることには気づいていません。人間について、自分自身について知っているつもりでいるのですが、ほんとうは、何もわかっていないまま生きています。問題があれば、その自分の枠の中で原因を見て、それで解決すると思っています。科学や医学は人間による研究ですから、人間の枠の中でのものでしかなく、人間を知ることができないのは当然です。「わかったつもり」であっても、すべてではないと宇宙物理学者が言われています。では、人間を知ることはできるのでしょうか。また、自分の枠から出ることはできるのでしょうか。そのことについて、お分かちしたいことがあるのです。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください